



東草野地区は甲津原、曲谷、甲賀、吉槻の4集落からなる地域だ。冬期の積雪などを理由に過疎化が進行する当地域では、各集落で地域活性化に向けた取組を行ってきたものの、過疎化に歯止めをかけるには至らず、徐々に戸数が減りつつあった。

そんな中、各集落共通の課題である過疎・高齢化の解決に向けて、4集落が力を合わせて地域活性化に取り組むため、各集落から当年度と前年度の区長を含む4、5人（計20人程）が委員を務める「東草野まちづくり懇話会」が、平成19年度に結成された。そして、懇話会が主体となり、地元にいる人が元気を持って暮らせるよう、本事業による取組を開始した。

**■多彩な移住・交流事業**  
本事業では、月に一度定例会議を開き、地域課題の解決にむけて協議を重ねながら、フリーマーケットや田舎暮らし体験といった移住・交流事業を実施した。



フリーマーケット

曲谷の広場で行われたフリーマーケットでは地域内外から出店者が集い、約500人の来場者が4集落の特産品などを買い求めた。

また湖北移住交流支援研究会との共催により、「伊吹山麓のんびり田舎暮らし体験」を開催。田舎暮らしにアコガれをもつ都市住民や、滋賀県と姉妹提携しているミシガン州の大学生を迎え、集落散策や農業体験、地元住民との意見交換会を行った。さらに、4集落あわせて30数軒の空き家を有効活用するため、空き家所有者に対し活用意向調査を実施し、結果を取りまとめてデータベースを作成した。



集落散策

本事業による取組が終了した後も、懇話会による活動は継続されており、フリーマーケットは湖北移住フェスタというイベントと合併し、より大きな活動となった。さらに懇話会では、4集落合同の事業はもち

ろんのこと、各集落が単独で行う事業への支援も行っており、懇話会を中心に東草野の活性化に向けた取組は継続されている。

### ■メディアの取材が刺激に

こうした活動が新聞や地元ケーブルテレビ局に取り上げられ、東草野の知名度向上につながった。また、住民たちも取材を受けることやテレビに映ることが嬉しく、活動への良い刺激になっている。メディアに取り上げられることで、住民が地域の活性化を実感できるとともに地域への愛着がより強くなり、さらに活動に熱が入るといふ好循環が生まれた。

### ■地域資源を売り出す

東草野には、有名な「五色の滝」のほか、「与九郎滝」や「夫婦滝」など多くの滝がある。懇話会では、これらの滝への道を整備し、滝巡りを売



五色の滝

りに地域への誘客を狙うとともに、併せて民宿やレストランの整備を行うことにより地域の滞在時間を増やし、さらなる地域の活性化を図りたいと考えている。

また、東草野は水も空気も澄んでいて、無農薬栽培も行われている。味と安全性に自信のある農産物をブランド化し、付加価値を付けて販売することで価格競争の波に挑もうとしている。

### ●米原市職員のコメント

複数の集落が集まり地域の活性化を目指し活動されており、事業を活用してイベント等を実施されました。参加者との交流はもちろん、イベントを作り上げていく作業等を通して集落同士の協力関係や絆が生まれるなどお金だけではない効果があったと感じます。

《問い合わせ先》 米原市農林振興課 ☎ 0749-58-2228

## 地域の声

東草野まちづくり懇話会（座長） 法雲俊色さん



- 最初は「金儲けをすることがまちづくり」だという認識の人もいて、分かり合うのに苦労しました。
- こうした取組が、若い世代の人も「地元に残ろう」という意識を持つきっかけになると思います。

### ◆活動で工夫したこと

- ・ 4集落で協力して地域活性化に取り組んだ。

### ◆地域活性化のキーポイント

- ・ 地域活性化に取り組まなければいけないという住民の自覚。

### ◆今後の展望

- ・ 観光客に滝巡りをしてもらえるよう、滝に遊歩道を設置したい。
- ・ 味と安全性に自信のある農産物のブランド化。

●活動組織問い合わせ先  
東草野まちづくり懇話会  
☎ 0749-59-0354

Memo
甲津原（こうづはら）
【戸数】 39戸
【人口】 94人
【高齢化率】 51.1%
曲谷（まがたに）
【戸数】 27戸
【人口】 66人
【高齢化率】 42.2%
甲賀（こうが）
【戸数】 25戸
【人口】 61人
【高齢化率】 32.8%
吉槻（よしつき）
【戸数】 41戸
【人口】 103人
【高齢化率】 52.4%



「高野瀬池公園を憩いの場にした」池への愛着が活動継続の秘訣

豊郷町のほぼ中央に位置する高野瀬地区。集落の真ん中には高野瀬池という1haほどのため池がある。昔はコイの養殖が行われる綺麗な池であったが、近年は周辺環境の変化により水が滞留し、ヘドロが堆積。周辺住民から苦情が出るほどに池が汚れていた。

そこで、平成18年度に国土交通省の町づくり交付金事業を活用して高野瀬池のヘドロ対策（ヘドロの固化、盛り土）を実施。さらに池周辺に遊歩道が設置されるなど公園として整備された。

これを契機に、「せっかく整備してもらたんや」と地域住民の有志が「高野瀬公園ecoクラブ」を設立し、美しい高野瀬池公園を後世に引き継ぐため、池周辺の清掃活動や錦鯉の放流等を開始した。そして池の維持管理だけでなく、集落内の整備や景観保全等により地域活性化を図るため、ecoクラブと自治会が主体となり本事業に取り組むこととなった。

■高野瀬池公園を憩いの場に  
本事業では、高野瀬池公園の景観向上に向け

- 事業で取り組んだ活動
- ✓ **高野瀬池公園の整備**  
池の中にプランターを設置し、ハスやショウブ、スイレンの植栽を実施。池に小屋を設置し、ハクチョウとカモの飼育を開始。
  - ✓ **多目的かまどの設置**  
地域の広場にレンガを積み上げ、多目的かまどを設置。
  - ✓ **高野瀬城址の整備**  
中山道を中心とした観光客の流入を促進するため、高野瀬城址を整備し、地域の景観保全を図った。
  - ✓ **町の特産野菜「坊ちゃんカボチャ」を利用した創造料理体験**  
子どもが主体となり、「坊ちゃんカボチャ」を使った創造料理体験を実施。
  - ✓ **「高野瀬の歴史を学ぶ講演会」の開催**  
地域のお年寄りが言い伝えを披露するなど、子どもからお年寄りまで幅広い世代が郷土の歴史について学んだ。

て、住民の共同作業により池の中にプランターを設置し、ハスやショウブ、スイレンの植栽を行った。さらに高野瀬池にもつと関心を持ってもらおうと、池の中に小屋を設置して、ハクチョウとカモの飼育を始めた。こうした取組により、近隣住民が池を覗きに來たり、ハクチョウたちに餌を与えに来るなど、高野瀬池公園は地域の憩いの場になった。

その後活動の範囲を広げ、地域の広場に住民自らの手でレンガを積み上げ設置した多目的かまどは、地元の子どもたちがパンを焼くなど子どもへの創造力を育む貴重な地域資源となった。

高野瀬について



多目的かまど造り



高野瀬池

もつと知ってもらおうと開催した「高野瀬の歴史を学ぶ講演会」には、住民180名ほどが参加。講演会では地域の歴史を学ぶ講演会のお年寄りが昔からの言い伝えを披露するなど、老いも若きも郷土の歴史を学ぶことで、郷土への愛着を抱くきっかけとなった。



かまどでパン焼き

■活動を支える「愛着心」  
事業終了後も、ecoクラブは年に5、6回池周辺の清掃活動を行っている。しかしイベントに関しては、継続することに苦労している。発足当時と変わらぬメンバーは高齢化し、「活動のエンジン役がなかなかいない」と活動継続の苦労が垣間見える。それでも活動が続く理由は、「行政



カモに餌を与えにきた地域住民

地域の声

高野瀬 eco クラブ 事務局長 野村栄さん



- 池を公園として整備してもらったので、なんとか地元のもので守っていきたいということ取り組みました。
- 行政がやったらそれっきりになってしまう。どんな形でも「住民が関わった」ということが大事だと思います。

- ◆活動で工夫したこと
  - 多くの人に、どんな形でも活動に関わってもらった。
- ◆地域活性化のキーポイント
  - 多くの人に参加してもらうこと。  
(活動を通して色々な人の特技が見えてくる)
- ◆今後の展望
  - ecoクラブの活動を次の世代にバトンタッチしたい。

Memo

高野瀬 (たかのせ)
【戸数】 381戸
【人口】 997人
【高齢化率】 22.5%

●豊郷町職員のコメント  
池公園の設計にあたり、「噴水・遊歩道・四阿<sup>あずまや</sup>を設置して親水公園にしてほしい」など住民の皆様から多くの意見要望を頂き、規模がどんどん膨れあがりました。さらにヘドロの固化剤添加量の増加などが生じ、予算内に収めるのに設計担当者を悩ませました。しかしその甲斐あって、完成された時には自治会主催で記念式典をはじめ、様々なイベントを実施していただきました。今後は、住民総参加の取組により、潤いと安らぎを与えてくれる四季の花いっぱい公園となるよう期待しております。  
《問い合わせ先》 豊郷町地域整備課 ☎ 0749-35-8121





「高野瀬池公園を憩いの場にした」  
池への愛着が活動継続の秘訣

豊郷町のほぼ中央に位置する高野瀬地区。集落の真ん中には高野瀬池という1haほどのため池がある。昔はコイの養殖が行われる綺麗な池であったが、近年は周辺環境の変化により水が滞留し、ヘドロが堆積。周辺住民から苦情が出るほどに池が汚れていた。

そこで、平成18年度に国土交通省の町づくり交付金事業を活用して高野瀬池のヘドロ対策（ヘドロの固化、盛り土）を実施。さらに池周辺に遊歩道が設置されるなど公園として整備された。

これを契機に、「せっかく整備してもらたんや」と地域住民の有志が「高野瀬公園ecoクラブ」を設立し、美しい高野瀬池公園を後世に引き継ぐため、池周辺の清掃活動や錦鯉の放流等を開始した。そして池の維持管理だけでなく、集落内の整備や景観保全等により地域活性化を図るため、ecoクラブと自治会が主体となり本事業に取り組むこととなった。

■高野瀬池公園を憩いの場に  
本事業では、高野瀬池公園の景観向上に向け

- 事業で取り組んだ活動
- ✓ **高野瀬池公園の整備**  
...池の中にプランターを設置し、ハスやショウブ、スイレンの植栽を実施。池に小屋を設置し、ハクチョウとカモの飼育を開始。
  - ✓ **多目的かまどの設置**  
...地域の広場にレンガを積み上げ、多目的かまどを設置。
  - ✓ **高野瀬城址の整備**  
...中山道を中心とした観光客の流入を促進するため、高野瀬城址を整備し、地域の景観保全を図った。
  - ✓ **町の特産野菜「坊ちゃんカボチャ」を利用した創造料理体験**  
...子どもが主体となり、「坊ちゃんカボチャ」を使った創造料理体験を実施。
  - ✓ **「高野瀬の歴史を学ぶ講演会」の開催**  
...地域のお年寄りが言い伝えを披露するなど、子どもからお年寄りまで幅広い世代が郷土の歴史について学んだ。

て、住民の共同作業により池の中にプランターを設置し、ハスやショウブ、スイレンの植栽を行った。さらに高野瀬池にもつと関心を持ってもらおうと、池の中に小屋を設置して、ハクチョウとカモの飼育を始めた。こうした取組により、近隣住民が池を覗きに來たり、ハクチョウたちに餌を与えに来るなど、高野瀬池公園は地域の憩いの場になった。

その後活動の範囲を広げ、地域の広場に住民自らの手でレンガを積み上げ設置した多目的かまどは、地元の子どもたちがパンを焼くなど子どもへの創造力を育む貴重な地域資源となった。

高野瀬について



高野瀬池



多目的かまど造り

もつと知ってもらおうと開催した「高野瀬の歴史を学ぶ講演会」には、住民180名ほどが参加。講演会では地域のお年寄りが昔からの言い伝えを披露するなど、若いも若きも郷土の歴史を学ぶことで、郷土への愛着を抱くきっかけとなった。



かまどでパン焼き

■活動を支える「愛着心」  
事業終了後も、ecoクラブは年に5、6回池周辺の清掃活動を行っている。しかしイベントに関しては、継続することに苦労している。発足当時と変わらぬメンバーは高齢化し、「活動のエンジン役がなかなかいない」と活動継続の苦労が垣間見える。それでも活動が続く理由は、「行政



カモに餌を与えにきた地域住民

地域の声

高野瀬 eco クラブ 事務局長 野村栄さん



- 池を公園として整備してもらったので、なんとか地元のもので守っていきたいということでも取り組みました。
- 行政がやったらそれっきりになってしまう。どんな形でも「住民が関わった」ということが大事だと思います。

- ◆活動で工夫したこと
  - 多くの人に、どんな形でも活動に関わってもらった。
- ◆地域活性化のキーポイント
  - 多くの人に参加してもらうこと。  
(活動を通して色々な人の特技が見えてくる)
- ◆今後の展望
  - ecoクラブの活動を次の世代にバトンタッチしたい。

Memo

高野瀬 (たかのせ)
【戸数】 381戸
【人口】 997人
【高齢化率】 22.5%

●豊郷町職員のコメント  
池公園の設計にあたり、「噴水・遊歩道・四阿<sup>あずまや</sup>を設置して親水公園にしてほしい」など住民の皆様から多くの意見要望を頂き、規模がどんどん膨れあがりました。さらにヘドロの固化剤添加量の増加などが生じ、予算内に収めるのに設計担当者を悩ませました。しかしその甲斐あって、完成された時には自治会主催で記念式典をはじめ、様々なイベントを実施していただきました。今後は、住民総参加の取組により、潤いと安らぎを与えてくれる四季の花いっぱい公園となるよう期待しております。  
《問い合わせ先》 豊郷町地域整備課 ☎ 0749-35-8121



## 集落内外に「見える」活動が 集落共同活動の基礎を築く

日野町北畑地区は、ほ場整備事業が完了してから20年近くが経過し、用排水路等の維持管理の負担が増大する反面、地域に若者が少なく、農業の後継者が不足していた。そのため、農業施設の維持管理に新たな力を必要としており、農家・非農家が共同して農業施設を維持管理できる体制を構築するためのきつかけづくりとして、本事業に取り組みることとなった。

本事業の取組の中心となったのは、「北畑郷づくり委員会」だ。自治会では手が回らないような、地域活性化に関する取組を継続して行い、「住みよい北畑地区」をつくるため、平成17年度に自治会傘下の組織として立ち上げられた。委員の任期は2年で、老若男女、農家、非農家を含めた18名（役員5名、委員13名）で構成される。

### ■中からも外からも「見える」活動

事業での取組として、集落の入り口に面する畑に景観作物のコスモスを植え、用水路に水車を設置した。どちらも日常的に地元住民の目に触れるほか、外から来た人がわざわざ車を止めて眺めることもあるという。人の目につくこと

ろに取組の成果を残すことで、委員会による活動を地元住民に周知できるとともに、地元住民の意識が変わり、新たな協力者の確保に繋がる。「見える」活動は集落内外にプラスの影響をもたらす、地域活性化のキーポイントである。



設置された水車

### ■非農家の協力

事業で実施した取組は、景観作物の植栽や水車の設置のほか、排水路の浚渫や休耕田でのそば栽培など「農業関係」のものが多く。地域で反対意見が上がることなく、非農家も含めてこのような活動が進められた理由は、非農家も構成員の一員である郷づくり委員会が活動を企画

## 地域の声

【写真左から】（委員会会長）岡 義雄さん・（委員理事）門 完さん・（農業組長）嶋村寿雄さん・（自治会長）門 彦継さん・（委員会事務局長）門 庄助さん



- 一致団結とまではいなくても、住民の協力を得て様々な取組ができました。
- 取組を通して非農家も含めた集落共同活動の下地ができました。

### ◆活動で工夫したこと

- ・ 「郷づくり委員会」を老若男女、農家、非農家等幅広い人材で構成した。
- ・ 活動内容により女性や農家等臨機応変に対象を変えて参画を促した。

### ◆地域活性化のキーポイント

- ・ 地域住民の目につくところに活動の成果を残す。

### ◆今後の展望

- ・ 都市住民との交流事業に取り組みたい。

## 事業で取り組んだ活動

- ✓ **景観作物の栽培**  
…集落の入り口に面した畑でコスモスを栽培。
- ✓ **水車の設置**  
…集落の入り口に位置する用水路に手作りの水車を設置。
- ✓ **そばの栽培**  
…休耕田を用いてそばを栽培。収穫したそばでそば打ち体験を実施。
- ✓ **集落世代間交流活動**  
…ため池へのハイキング、ため池下流の水路で魚つかみ、バーベキュー等を実施。
- ✓ **排水路の浚渫**  
…排水路に堆積した土砂の浚渫作業を実施。

### ■そして集落共同活動へ

本事業での取組を通して集落共同活動を行う下地を築くことができた北畑では、24年度から非農家を含めた集落共同活動による農地および農業施設等の維持管理に向けて、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策（農地・水保全



集落の入り口に咲くコスモス

し、実施してきたからだ。また、活動の内容に応じて、地域の女性に活動への協力を要請したり、農家中心で活動を行ったりと、臨機応変に活動を進めたことも、円滑に事業が進められた要因の一つだ。

管理支払交付金」の取組を開始した。そして今後、「北畑郷づくり委員会」が中心となり、コスモスの栽培などの「見える」活動を継続することで集落に刺激を与えながら地域の活性化を推進する。



魚つかみに興じる子ども達

### ●日野町職員のコメント

より多くの住民の方々の協力が得られるよう、活動内容を工夫されたことで、住民の方々の郷づくりへの意識が高まりました。3年間の活動を契機に、平成24年度より新たに世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策に取り組んでまいります。集落ぐるみの共同活動を通じて、地域活性化がさらに推進されることを期待します。

《問い合わせ先》 日野町農林課 ☎ 0748-52-6563

Memo  
北畑（きたばた）  
【戸数】55戸  
【人口】186人  
【高齢化率】34.4%





各々が得意分野で活動  
自由な組織で続くまちづくり

上丹生地区は、木彫・仏壇が200年以上前から地場産業として発展し、技術を若い世代に引き継ぎながら、今なお地域には二十数軒の工房が存在する。しかし、宅地が少ない上丹生地区では若者が集落外へ出ていく傾向にあり、地域では高齢化が進行していた。

上丹生では、平成13年度に実施された国の補助事業をきっかけに、まちづくり組織「プロジェクトK」が立ち上げられた。自治会の会長は1、2年で変わることから、この組織は取組の継続性を保つために自治会と切り離されたものとなっている。

3年間で補助事業は終了したが、その後も地域での活動を継続し、平成20年度からふるさと農村支援事業に取り組みこととなった。

■高齢者の活躍の場を創出する

本事業では、「花いっぱいプロジェクト」と題して、チューリップの作付けを実施し、開花時期に併せて「チューリップ祭り」を開催した。祭り当日は集落内外から多くの来場者があった。プロジェクトKは、地域でのイベントにあえて地域の高齢者の出番を作り、高齢者がイベン

トを盛り上げる一員となれるよう企画している。「チューリップ祭り」では、おばあちゃんが作るよもぎ餅が大好評。地域が大きいにぎわっただけでなく、地域内で世代を超えた交流が図られた。

さらに、地域の高齢者に話を聞きながら、地域の生活史を絵屏風に表現する「心象絵図※」の作成に挑戦した。おじいちゃんおばあちゃんも昔話を始めると止まらない。上丹生の歴史や文化が凝縮された立派な心象絵図が完成した。

こうした取組の背景には、「高齢者が多ければそれを悲観するのではなく高齢者の活躍の場を作ればいい」というプロジェクトKの思いがある。



完成した心象絵図



心象絵図の作業風景

地域の声

【写真右から】プロジェクトK（会長）吉田英治さん・（会員）清水則男さん・（会員）清水朝雄さん・（会員）中村正夫さん・（営業企画）寺田幸彦さん



- 事業で実施したイベント等を通して、集落内のつながりが強くなりました。
- 現在は、「炭盆裁」の販売や畑のオーナー制度等により自主財源を稼ぎながら活動を継続しています。

◆活動で工夫したこと

- 高齢者が多いことを悲観せず、高齢者の活躍の場を創出した。
- 活動は無理のない範囲で各々が好きな活動に参加した。

◆地域活性化のキーポイント

- 地域によってできることとできないことがある（地域に合った取組を）。
- 高齢者だからこそできることがある。

◆今後の展望

- 「炭盆裁」や畑のオーナー制度で自主財源を稼ぎつつ、活動を継続したい。

●活動組織問い合わせ先  
プロジェクトK（担当）吉田英治  
☎ 0749-54-1928

Memo  
上丹生（かみにゅう）  
【戸数】140戸  
【人口】447人  
【高齢化率】36.7%

出典：H22 国勢調査

事業で取り組んだ活動

- ✓ **花いっぱいプロジェクト**  
…チューリップの作付けを実施し、開花時期に「チューリップ祭り」を開催。祭りには集落内外から多くの来場者があった。
- ✓ **「心象絵図」の作成**  
…地域の生活や文化、歴史を後世に残すため、集落の高齢者から聞き取りを行い、「心象絵図」を作成。
- ✓ **もくもくフェスタの開催**  
…地域の伝統工芸である木彫りや炭盆裁づくりが体験できるイベントを、地元の中学生と地域住民が企画し開催。
- ✓ **各種体験事業**  
…子ども会と連携し、炭焼きやピザ作り体験を実施。

■活動は各々が好きなこと・得意な分野で

プロジェクトKは会則がなく、入るのもやめるのも自由な組織だ。会員それぞれが好きなことや得意な分野で活動する。「やらされている」のではなく、「やりたい」人がメンバーであり、無理のない範囲で好きな活動に参加できることが、反対意見もなく活動が続く秘訣である。住民自らの手で作り上げた立派なツリーハウスからも、自由なプロジェクトKの「遊び心」が見て取れる。

また集落の気質として、地元住民は非メンバーでもプロジェクトKの活動に協力的だ。住民の協力があるからこそ、プロジェクトKは活動を展開でき



ツリーハウス

■自主財源によるまちづくり活動

これまでの活動が評価され、上丹生でのまち

づくりを参考にしようと、近年は他府県から視察に訪れる地域もある。このように、プロジェクトKの取組を通して外部との交流が生まれたことで、かつては排他的だった集落が変わってきたという。

事業が終わった現在、炭焼きで作った炭を活かした「炭盆裁」の販売や、畑のオーナー制度（一区画2500円）等により自主財源を稼ぎながら、恵まれた自然と豊かな人材を活かし、さらに「良い村」を目指して活動を継続している。

●米原市職員のコメント

区民との交流や環境・自然保護を考える機会とするため以前から炭焼きなど様々な活動が行われていましたが、自立的な組織となるため支援事業の活用が図られました。現在では、組織基盤も固まり取組の見本となる組織になったと実感しています。今後も様々な工夫を凝らした活動をされていくと思われます。

《問い合わせ先》 米原市農林振興課 ☎ 0749-58-2228

※ 心象絵図…人々の五感体験に基づき、地域の暮らしを一枚の絵図に描き出すことで地域を表現する。つくる過程を通して地域を知り、後世に伝えていくという手法（心象図法）。



上板並、下板並、大久保、小泉の4集落からなる姉川中部地区では、立地条件や冬期の積雪などを理由とする若者の都市部への人口流出等により、高齢化が進行していた。

それを受けて、当地域では平成19年度に県（農村振興課）による「空き家活用対策検討モデル調査」が実施された。調査結果から地域の空き家増加を再認識し、集落単位で地域を維持していくことに危機感を覚えた区長らが、地域の将来展望を4集落で協議するため、各集落の当年度の区長と前年度の区長の計8名で構成される「姉川せせらぎ懇話会」を立ち上げた。

活動は文化・伝統の「掘り起こし」

懇話会を立ち上げたものの、最初は何をしたらよいかわからず、手探りの状態だった。そこで、新しいことに取り組みではなく「昔取り組んでいたこと（地域文化・伝統）の掘り起こし」をやってみようという事で、本事業による取組が始まった。

事業では、過去に地域で行われていたわさびの栽培や、地域の伝統的な食文化である「ちまき作り体験、コンニャク芋を使った地域の食

事業で取り組んだ活動

- ✓ **地元農産物を活かした郷土料理体験**  
…地域の伝統的な食文化を継承するため、ちまき作り体験や豆腐作り体験を実施。
- ✓ **コンニャク芋を使った地域の食作り研修会**  
…手作りで作られることの少なくなったコンニャク栽培を地域で復活させ、コンニャクの定植体験を実施。
- ✓ **わさび栽培**  
…新たな特産作物として、湧水を利用したわさび栽培を実施。
- ✓ **田舎のごっつお(ごちそう)ハイキング**  
…移住促進を目的に、集落散策や空き家見学、田舎の郷土料理のハイキングにより地域の魅力をPRするイベント「田舎のごっつおハイキング」を開催。定員(50名)を超える参加があり、地域も大いに盛り上がった。

作り研修会などを実施した。活動当初は地域住民を対象に実施していたが、活動が進むにつれ次第に外部への情報発信、イベントによる集客を行うに至った。

これらの活動により、外部に向けて地域の魅力を発信できただけでなく、地域住民間での文化継承にも繋がった。

イベントで元気な地域をPR

イベントへの参加者は、一回に多くても30名程度であることから、イベントによる地域への直接的な効果は決して大きくない。しかし、活動を行うことが、メディアや口コミにより「この地域が元

気だよ」という外部への発信、地域のPRに繋がる。地域が元気なことを多くの人に知ってもらうことで、いずれは地域から出て行った人が故郷に戻りたくなる「きっかけ」になれば、という思いから、懇話会では外部への広報活動に力を入れている。

新たな住民を迎え、さらなる取組を

地域でのイベントはPRに役立ったものの、イベントを行うことで自治会の負担は大きくなっており、自治会の役を担う後継者の不足が大きな悩みの種となっている。

一方で、米原市の『みらいづくり隊』として、22年度から若い3名が地域に移り住んだ。



田舎のごっつおハイキング



ちまき作り体験



豆腐作り体験

地域の声

【写真左から】姉川せせらぎ懇話会（元副会長）長谷善行さん・（元会長）室谷貞蔵さん・みらいづくり隊 松崎淳さん

- 活動を通して、地域の魅力を外部に発信できたほか、地域住民の文化継承にも繋がりました。
- 獣害が酷く、何を栽培するにも大変。また集落でまとまったもの（特産品）がないことが課題です。

◆取組で工夫したこと

- 昔取り組んでいたこと（地域文化・伝統）の掘り起こしを行った。
- 外部への情報発信に力を入れた（「地域が元気なアピール」になる）。

◆地域活性化のキーポイント

- 活動を引っ張るリーダーの存在。
- 複数集落が連携して取り組む。

◆みらいづくり隊 松崎さんのコメント

この地域は大変恵まれた環境の中で、便利さが保たれている。地域から出て行かれた方に、地域が元気になったことを知ってもらって、いずれは戻ってきてもらえると思う。

●活動組織問い合わせ先

有限会社シロコヤ石油（代表）室谷貞蔵  
☎ 0749-58-1333

Memo

上板並（かみいたなみ）	【戸数】76戸	【人口】218人	【高齢化率】36.7%
下板並（しもいたなみ）	【戸数】35戸	【人口】96人	【高齢化率】45.8%
大久保（おおくほ）	【戸数】68戸	【人口】177人	【高齢化率】42.9%
小泉（こいずみ）	【戸数】12戸	【人口】40人	【高齢化率】27.5%

●米原市職員コメント

都市と農村の交流を切り口に取り組みを開始され、郷土料理作り体験や炭焼き体験など古くから行っていた活動を体験プログラムにし、好評を得ています。地道に活動を行うことで地域住民の協力も増え、活動の効果が見受けられ、今後の活動に大いに期待しております。

《問い合わせ先》 米原市農林振興課 ☎ 0749-58-2228

※ みらいづくり隊（地域おこし協力隊）…過疎・高齢化に立ち向かうため、市の条例に定められた地域において、地域活性化の原動力となる人材を市長が隊長として委嘱。隊員は2年間地域住民と協力しながらまちづくりに取り組むとともに、地域に定住するための起業や就業に向けた活動に取り組む。





奥伊吹スキー場のそばに位置し、冬場はスキー客でにぎわいを見せる甲津原地区。かつては多くの民宿があったが、道路整備が進んだことでスキー客のほとんどが日帰り客となり、今では2軒を残すのみとなった。また、地域にはキャンプ・宿泊施設のアグリコテージや、甲津原の物産が集まる甲津原交流センターなどの立派な施設が整備されているが、活用率が低いという課題を抱えていた。甲津原ではこれらの課題を解決するために「農業体験ツアー」を企画し、取り組んできたという経緯がある。

### 11年続く取り組み

甲津原では本事業に取り組む以前から、滞在型農業体験ツアーが行われてきた。既存の宿泊施設を有効活用するための事業が農業体験と結びつき、米原市の主導により農業体験ツアーが開始されたのだ。現在は区の主導となり、区からの依頼でスキー場を運営する(株)奥伊吹観光が「甲津原農業体験事務局」として企



アケビの収穫

画や受付を担当している。

ツアーは春と秋の年2回、春は田植えや野菜苗の定植体験、秋には稲刈りや、自生のアケビ・クルミといった「野山の贈り物」

の収穫を体験できる。アグリコテージや地域の民宿で1泊し、甲津原の自然を満喫できるほか、地元のおいしいちゃん、おばあちゃんとの交流などを通して和やかな田舎の雰囲気を味わえる。毎回30人ほどの参加者があり、リピーターが多いのが特徴だ。また都会、田舎を問わず子ども連れの参加者が多い。

### 住民も楽しむ

農業体験ツアーを開始してから、ツアー参加者と触れ合う中で、住民自身もツアーを楽しめるようになったという。徐々にツアーに積極的



集落内散策(クルミ発見)

### 地域の声

甲津原農業体験事務局 佐々木光雄さん



「農業体験ツアー」は参加者のみなさんに喜んでもらっています。また、ツアーは甲津原のおばあちゃんたちの生き甲斐にもなっていると思います。

#### ◆活動で工夫したこと

- 運営を手伝う役員に対し、区から手当てを支給した。

#### ◆地域活性化のキーポイント

- 地元住民も活動を楽しむこと。

#### ◆今後の展望

- 農業体験だけでなく、山登りなどツアープログラムの充実化を図る。
- 道の駅にチラシを置くなど、広報活動により力を入れ、新規参加者の獲得を目指す。

●活動組織問い合わせ先  
甲津原農業体験事務局  
☎ 0749-59-0323

Memo  
甲津原(こうづはら)  
【戸数】39戸  
【人口】94人  
【高齢化率】51.1%

出典: H22 国勢調査

### 事業で取り組んだ活動

#### ✓ 検討会議

…都市住民との交流活動に関する検討会議を開催。

#### ✓ 都市住民との交流活動「農業体験ツアー」

…一泊二日の滞在型田舎・農業体験ツアーを春と秋の年2回開催。

<プログラム>

春: 山菜採り、田植え、野菜の定植、集落散策など

秋: 稲刈り、野菜の収穫、加工体験、魚つかみなど

治会の役員たちも、ツアー参加者との交流を楽しみにしている人が多い。参加者を楽しませるだけでなく、住民と一緒に楽しむというところが、地域で継続される活動には不可欠だ。

また甲津原農業体験事務局から区に要望し、現在ではツアーを手伝う役員には区から手当が出されるようになった。ボランティアだけでは活動を継続することは難しい。活動に見合う額ではないが、事業を支える役員への配慮は欠かせない。そのささやかな配慮によって、役員も早く事業を手伝うことができるのだ。



田植え体験

住民も声をかけてくるようになった。

またツアー参加者の中には、甲津原の農産物が気に入って直接買い付ける方も現れた。ツアーは「間違いなくおいしい」自慢の農産物をアピールする絶好の機会ともなっている。

甲津原ではこの取組をこれからも続け、地域の魅力をアピールしていく予定だ。

### ◆地元の農産物をPR

ツアーを楽しみにしている住民もいれば、取組に関わっていない住民もいる。しかし、何年も継続してきた取組はすっかり地域に定着しており、ツアーの際中に取組に関わっていない



脱穀体験

### ●米原市職員のコメント

宿泊型農業体験として取組がはじまって以来、徐々に参加者が増加しているほかりピーターも多く、参加者はもちろん地域住民の楽しみとなっているようです。都市住民と地域住民の交流の様子を拝見していると両者とも大変生き生きされており、今後も残していきたい活動と考えます。

《問い合わせ先》 米原市農林振興課 ☎ 0749-58-2228